# 2020年3月期 決算説明 2020年5月22日 ③丸文株式会社 東証1部7537 \*\*2020 MARJEUN CORPORATION

丸文株式会社2020年3月期決算の概要と、中期経営計画についてご説明いたします。

# アジェンダ

- 1. 2020年3月期 連結決算の概要
- 2. 株主還元
- 3. 中期経営計画 事業戦略と重点施策
- 4. 2021年3月期 業績予想について
- 5. 参考資料

**MARUBUN CORPORATION** 

© 2020 MARUBUN CORPORATION





### 2020年3月期 業績サマリ

百万円)	19/3月期		20/3月期			前年同期比		予想比
	実績	構成比	予想	実績	構成比	金額	%	増減額
売上高	326,694	100.0%	285,000	287,550	100.0%	△ 39,144	-12.0%	2,550
デバイス事業	275,073	84.2%	233,300	239,698	83.4%	△ 35,375	-12.9%	6,398
システム事業	51,621	15.8%	51,700	47,852	16.6%	△ 3,769	-7.3%	△ 3,848
売上総利益	22,767	7.0%	19,300	18,577	6.5%	△ 4,190	-18.4%	△ 723
販管費	17,719	5.4%	16,400	16,207	5.6%	△ 1,512	-8.5%	△ 193
営業利益	5,048	1.5%	2,900	2,369	0.8%	△ 2,679	-53.1%	△ 531
営業外収益	568	0.2%	1,300	958	0.3%	390	68.7%	△ 342
営業外費用	2,596	0.8%	1,400	1,322	0.5%	△ 1,274	-49.1%	△ 78
経常利益	3,020	0.9%	2,800	2,006	0.7%	△ 1,014	-33.6%	△ 794
特別利益	38	0.0%	5	11	0.0%	△ 27	-71.1%	6
特別損失	76	0.0%	250	1,231	0.4%	1,155	1519.7%	981
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,636	0.5%	1,350	△ 75	0.0%	△ 1,711	-	△ <b>1,425</b>
期末従業員数 (名)	1,336	-		1,324		△ 12	-0.9%	

### Point

売上高	通信機器向け半導体の需要減、18年10月のサムスン電子事業譲渡による減少
売上総利益	売上高の減少、上期の円高進行で円ベースの売上総利益が減少
営業利益	販管費を抑制したものの、売上総利益の減少を補えず減益
経常利益	外貨建て債務の決済や時価評価に伴う為替差益7億円計上したが減益
当期純利益	特別損失として投資有価証券評価損 978百万円を計上

### MARLIBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

2020年3月期の決算について説明します。

連結売上高は2,875億円となりました。昨年度の実績3,266億円と比べますと391億円、12.0%の減少となっております。

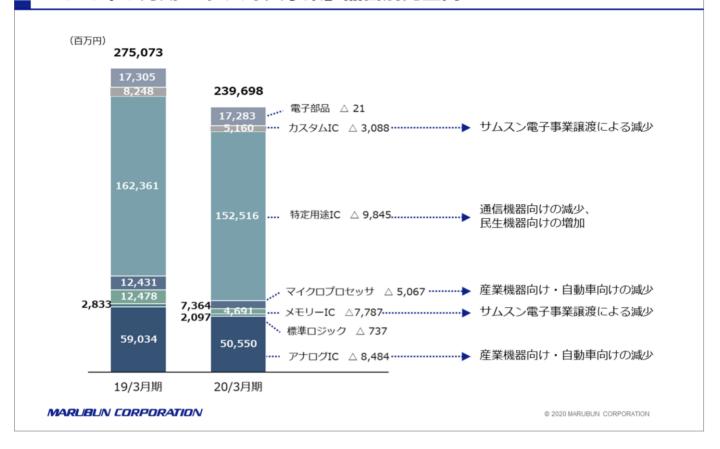
デバイス事業で353億円の減収、システム事業でも38億円の減収となりました。利益面では為替相場の変動が大きく影響し、売上総利益は売上の減少要因に加え、上期の円高進行でドル建て取引の仕入・売上計上時の為替レート差により円ベースでの利益が目減りし、前期比42億円減少の185億円となりました。

営業利益は、販売活動経費や人件費の減少により販管費を15億円削減したものの、売上 総利益の減少を補えず前期比27億円減少の23億円となりました。

また営業外損益では、上期の円高進行に伴って外貨建て債務の決済や時価評価に伴う為替差益を計上したものの、経常利益は前期比10億円減の20億円となりました。以上に加え特別損失として投資有価証券の評価損を9億7千5百万円計上した結果、誠に遺憾ながら当期純損益は7千5百万円の損失となりました。

投資有価証券の評価損は、デバイス事業の新規ビジネスとして出資している仕入先の一部で事業計画に遅れが生じており、将来の回収可能性を検討した結果減損処理したものです。なお昨年10月の業績予想比では、売上高は2,850億円の見込みに対して25億円の増収となった一方、相対的に高利益率商品の売上が低調だったことから、営業利益では5億円のマイナス、経常利益は7億円のマイナスとなりました。

### 2020年3月期 『デバイス事業』品目別売上高



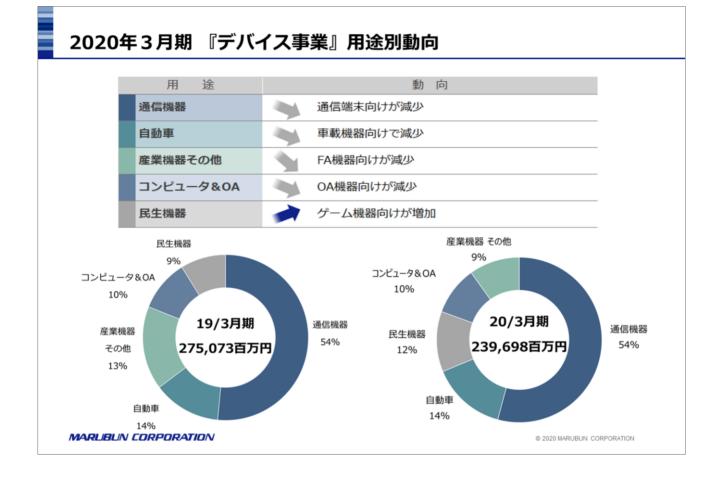
売上高について当社の2つの事業セグメント、デバイス事業、システム事業の順に ご説明します。

デバイス事業の売上高は、前期の2,750億円から2,396億円に、354億円減少しました。

減少の要因は主に、通信機器や産業機器分野の需要減と、2018年10月1日付でサムスン電子製品の販売事業を譲渡したことの影響によるものです。

通信機器の需要減は特定用途ICで、産業機器向けはアナログICやマイクロプロセッサで影響が出ました。またアナログICやマイクロプロセッサは自動車向けも低調でした。

またサムスン電子製品の事業譲渡では、メモリーICとカスタムICで大きな影響が出ました。



デバイス事業を用途別で説明します。

デバイス事業の用途別売上では、民生機器向けが増加しました。これは新規商権の 獲得が寄与したことによるものです。

シェアの変化では、民生機器が増加し、産業機器が減少しました。通信機器や自動車、OA機器は前年並みの比率となりました。

# 2020年3月期 『システム事業』品目別売上高



システム事業の売上は、前期の516億円から478億円へ38億円減少いたしました。

航空宇宙機器は、宇宙関連プロジェクトの端境期にあるため、人工衛星用搭載部品 が減少しました。

産業機器は中国の景気減速の影響を受けて産業機器組込用コンピュータの需要が減少したほか、電子部品検査装置も減少しました。

レーザ機器は、レーザ微細加工装置の売上が減少しました。

一方、情報通信機器は5G通信インフラ向けの測定器やシミュレータの売上が増加 しました。

医用機器は、CTなどの大型画像診断装置の売上が堅調でした。



### 2020年3月期 貸借対照表の概要

(百万円)	19/3月期末	20/3月期 末	前期末比	主な増減理由	
	実績	実績	増減額	土は垣原珪田	
資産合計	128,163	131,451	3,288		
流動資産	113,985	118,617	4,632	現金及び預金	+4,442
				受取手形及び売掛金	+2,511
				商品及び製品	△2,342
固定資産	14,177	12,833	△ <b>1,344</b>	投資その他資産	△1,417
負債合計	78,436	83,246	4,810		
流動負債	75,623	76,537	914	短期借入金	+8,410
				1年内返済予定長期借入金	△6,500
固定負債	2,813	6,708	3,895	長期借入金	+3,950
Maria de la composición del composición de la co					

### MARLIBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

次に貸借対照表の概要をご説明します。

総資産は1,314億円となり、前期末に比べ33億円増加しました。

資産項目で見ますと、受取手形及び売掛金が25億円増加しました。

一方、商品及び製品は23億円の減少となりました。これは半導体の在庫が減少したことによるものです。

また負債項目につきましては、短期借入金が前期末に比べ84億円増加しました。

株主還元		
不工坯儿		
		© 2020 MARUBUN CORPORATION
		© 2020 MARUBUN CORPORATION



株主還元についてですが、当社は連結配当性向30%以上を目安として配当を決定しています。

2020年3月期の期末配当金は20円とし、中間の配当と合わせまして、年間では30円とさせていただく予定です。

厳しい決算内容となりましたが、継続的な利益還元の観点から予定通り期末配当を 行わせていただくこととしました。



当社の事業施策の取組み状況についてご説明します。

### 2019-2021年度 中期経営計画の取り組み

### 中期経営計画 方針

- ① 新たな価値を創造するビジネスモデルの構築
- ② 成長市場に向けた事業開発の促進
- ③ 持続可能な社会に貢献する取り組みの強化

### 市場環境の変化

貿易摩擦を背景 とした経済停滞

新型コロナウイルス 感染症の影響

### 自社環境の変化

産業機器向け 需要の低迷

TI社との 特約店契約終了

### 経営目標

ROE目標を5.0%以上の達成に変更

MARUBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

昨年5月に開催した決算説明会で、2021年度を最終年度とする中期経営計画を発表いたしました。「新たな価値を想像するビジネスモデルの構築」「成長市場に向けた事業開発の促進」「持続可能な社会に貢献する取り組みの強化」の3つの方針を掲げ、ROE8%の達成を目指し業績の向上に努めてまいりました。

しかしながら、この2年間、米中貿易摩擦に端を発した中国経済の減速の影響を受け、産業機器向けの需要が想定以上に落ち込みました。

また今年度については、昨年7月に公表しました通り、2020年9月末を以って主要仕入先のひとつであるテキサス・インスツルメンツ社との契約が終了いたします。足元では新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済に甚大な影響を及ぼしており、当社のお客様におきましても生産ラインの一時休止など、大きな影響が出ております。

これまで進めてまいりました中計施策の成果は着実に芽が出てきており、これからもその 取り組みを進めてまいります。しかしながら現在の状況を鑑みますと、当初想定していた 資本効率の向上は困難と判断せざるを得ません。

そのため、「ROE8%」の目標を引き下げ、まずは5%の達成を最優先で目指し、収益力の向上に向けた取り組みを推進してまいりたいと考えております。

# 取り組みテーマ

事業ポートフォリオの進化

生産性の向上



# 事業収益の最大化を目指した 取り組みを推進

MARLIBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

デバイス事業では「事業ポートフォリオの進化」と「生産性の向上」をテーマに、 事業収益の最大化に向けた取り組みを、今後も、より一層、進めてまいります。



「既存ラインカードの深耕」では、新規の販売先への拡販を積極展開しています。ラインカードの一層の充実とソリューション提案力の強化にも取り組みさらなるサービスの向上を目指します。

「成長市場での事業拡大」につきましては、これまでも、医療や介護、IoTなどの分野でユニークな技術を持つ企業に投資し新たな商材を開拓して事業化を進めてきました。アイオロス社のロボット事業では、AI搭載の介護支援ロボットを介護施設などに提案しています。さらに、自動車分野ではSilicon Mobility社のモーター制御コントローラなど戦略製品の拡販を推進しています。

またIoT活用のためのアプリケーション開発・実行プラットフォーム「VANTIQ」の取扱いも開始し、今後もソフトウェア製品を拡充してデバイス商材と組み合わせた新たなソリューションを提案していきます。

「海外ネットワークの充実」では、新型コロナウイルス感染症の収束を見極めて、北米や欧州での事業の拡大を進めていく方針です。デバイス事業では、これらの取り組みを加速するため、柔軟に組織を組み換え、人材を再配置して、「生産性向上」への取り組みを強化してきました。

デジタルマーケティングの活用にも引き続き取り組み、今後も効率的な提案活動とお客様の潜在的なニーズの取り込みに注力していきます。

### システム事業の取り組み



システム事業では「マーケットインとカスタマーイン」の「顧客志向」をベースにして収益 カの向上に取り組み成果を上げてきました。

この基本戦略を継続しながら、今後も「製品・技術・サービスの差別化」でより高収益な事業を目指した取り組みを推進します。

### システム事業の分野別の取り組み

### 航空宇宙機器

- ■人工衛星・ロケット搭載モジュール向け高信頼性部品の拡販
- ■航空宇宙向けや自動車向け新規商材を拡大

### 情報通信機器

- 5 G関連製品の取扱いと高い専門性で更なる事業拡大に注力
- ■成長市場へのアプローチやコネクティドソリューションへの展開

### レーザ機器

- ■産業機器向け、医療用向けで維持・拡大
- ■商品ラインアップの拡充と販促活動の強化

### 産業機器

- ■産業向けや自動車向けの組立・検査・解析装置の事業伸長に注 力
- ■最先端製品の開発やソリューション提案力を強化

### 医療機器

- ■取扱い製品のエンジニアリングカを強化しシェア拡大
- ■新規商材の拡充と販売エリアの更なる拡大

### MARLIBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

「航空宇宙機器」は、人工衛星・ロケット搭載モジュール向けの高信頼性部品の拡販を進め、この分野での部品供給会社として国内NO.1のポジションを目指します。航空機及び自動車用運転シミュレータ、自動車衝突実験用のセンサー、データ収録装置など新規商材の立ち上げにも注力し、ビジネス領域の拡大に取り組んでいす。

「情報通信機器」では、5Gの商用サービス開始に伴い問い合わせや引き合いを数多くいただいていす。ハードウェアのみならずソフトウェアを含めた幅広い商材と、コンサルティング力など専門性を高め、更なる事業規模の拡大に取り組んでいきます。

「レーザ機器」では、産業機器や医療機器組込みレーザのビジネスで維持・拡大を図りつつ、成長が期待される深紫外や紫外線LED関連の商品ラインアップの拡充とプロモーション活動の強化を進めます。

「産業機器」では、インダストリアルIoT分野において需要が高まっている産業機器向けの組込み用コンピュータの伸長を見込んでいます。また、自動運転などの技術開発により成長が期待される自動車市場向けで

は、組立・検査・解析装置の拡販を進めていきます。これらの分野では、特に技術的に差別化が 図れる最先端製品の開発を促進します。顧客ニーズに基づいたソリューション提案力の強化にも 引き続き取り組みます。

「医療機器」では、画像診断装置を中心にエンジニアリング力を強化することでシェアアップを 推進し、また新規商材の拡充と販売エリアの更なる拡大を目指した取組みを推進します。



今年度の業績見通しについて説明します。

### 2021年3月期 業績予想について

### ▮業績予想

- ■2021年3月期の連結業績予想については、新型コロナウイルスの 感染拡大による影響を現段階において合理的に算定することが困難 であるため未定としています
- ■今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表します

MARLIBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

2021年3月期の業績予想につきましては、5月15日に公表しました決算短信に記載の通り、新型コロナウイルスによる影響を現段階において合理的に算定することが困難であるため『未定』としています。

今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

# 参考情報

© 2020 MARUBUN CORPORATION



### 会社概要

創 業	1844年(弘化元年)		
設 立	1947年(昭和22年)7月		
所在地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号		
資 本 金	62億1,450万円		
決算期日	3月31日		
代 表 者	代表取締役社長 飯野亨		
売上高	連結 2,875億円(2020年3月期) 単体 2,318億円(2020年3月期)		
従業員数	連結 1,324名(2020年3月末) 単体 750名(2020年3月末)		
株式上場	東京証券取引所 市場第一部(コード:7537)		

### 事業領域



### 連結売上高の推移





呉服問屋を停止し、資産管理を目的に堀越事務所を設立

現本社所在地で呉服問屋「堀越」(屋号「丸文」)を創業

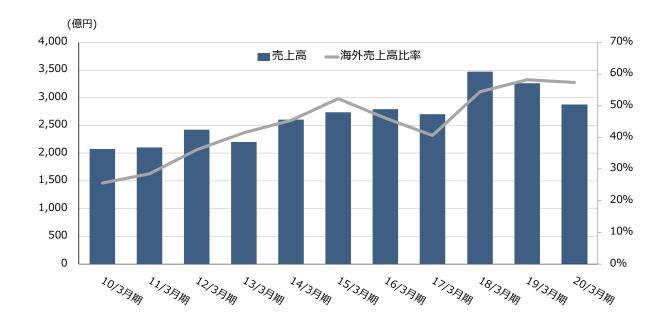


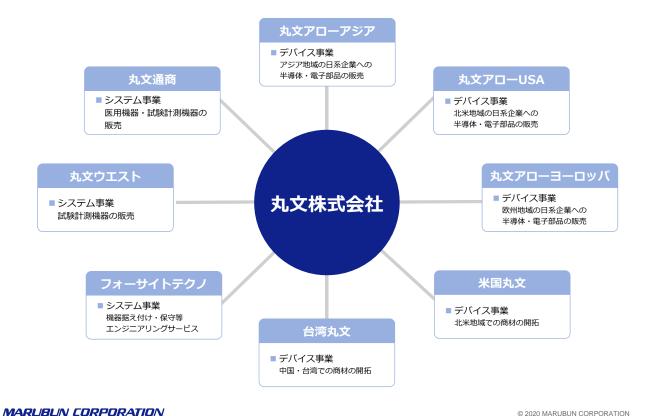
MARUBUN CORPORATION

1844

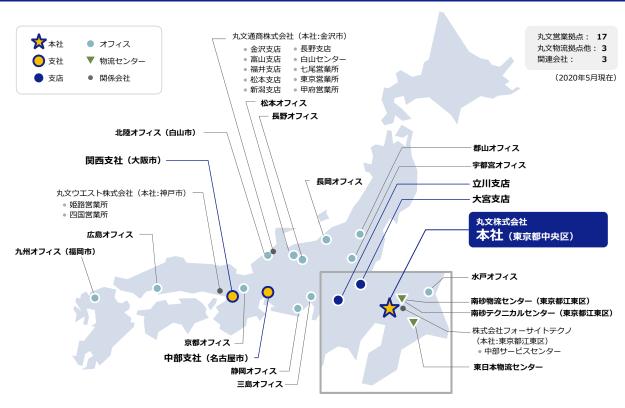
© 2020 MARUBUN CORPORATION

# 中長期トレンド(売上高・海外売上高比率)

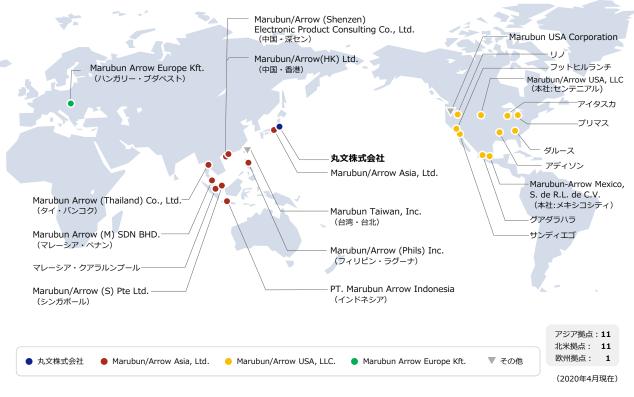




# 国内拠点



# グローバルネットワーク



### MARUBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

# 提供価値

### グローバルサポート

- アローエレクトロニクス(80ヶ国、 349拠点)との協業
- 丸文アローによるワールドワイドで 日本品質のサポート

# 豊富なラインカードと 製品相互のシナジー

- 国内外の競争力のあるサプライヤをラインナップ
- 標準品からカスタムまで幅 広い取扱製品

# 提供価値

# システムソリューション

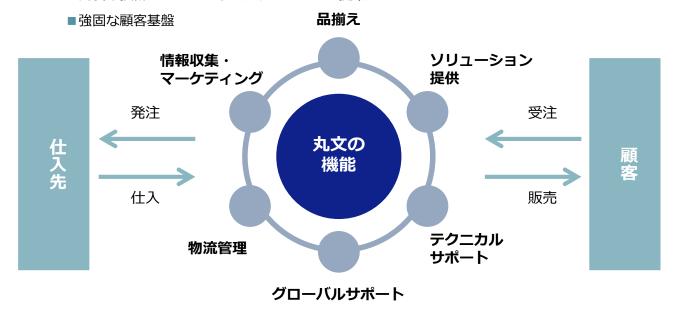
- 高い専門性をもつ強力な技術サポート 体制
- 3<sup>rd</sup>パーティ、モジュールメーカ、 EMS/ODM等との協業関係

# 長年に渡る取引で 培われた強固な顧客基盤

■ 国内電子機器メーカーを中心とする 強固な顧客基盤

# デバイス事業:特徴と強み

- ■海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- ■米国アロー社(80ヶ国、349拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- ■高度な技術力をもとにしたソリューション提案力



MARUBUN CORPORATION

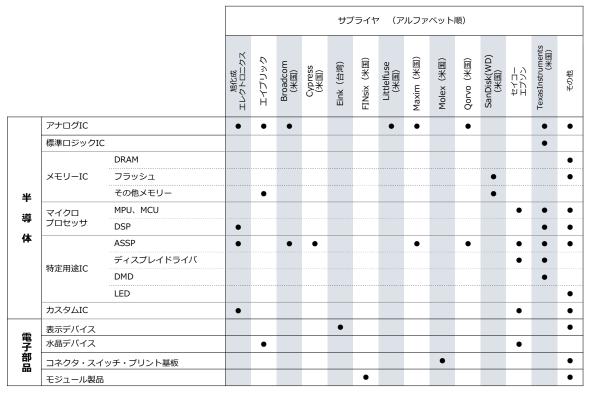
© 2020 MARUBUN CORPORATION

# デバイス事業:グループ会社概要

社 名	住 所	設立年月	出費比率	事業內容
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50%	丸文アローシンガポール、 丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50%	>= 1 × 1 × 1 = - 1 × 1 × 1
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50%	海外進出した日系企業への 半導体・電子部品の仕入販売
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50%	
Marubun Arrow Europe Kft.*	Budapest, Hungary	2017年11月	50%	

<sup>\*</sup> Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、Marubun Arrow Europe Kft.は持分法適用の関連会社です。

# デバイス事業:取扱製品(サプライヤ別)

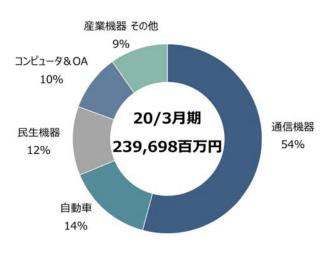


### MARUBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

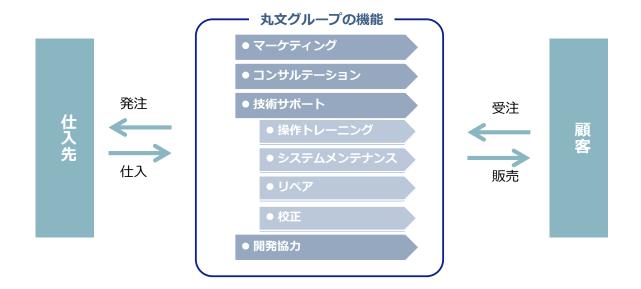
# デバイス事業:主要取扱い製品(用途別)





# システム事業:特徴と強み

- ■ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- ■システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



**MARUBUN CORPORATION** 

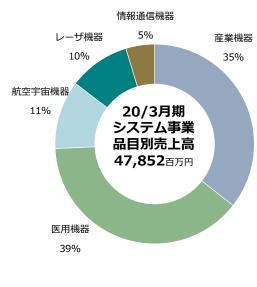
© 2020 MARUBUN CORPORATION

# システム事業:グループ会社概要

社 名	本 社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100%	医用機器および試験計測機器の 仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51%	システム製品の修理・メンテナンス <i>、</i> エンジニアリングサービス

# システム事業:主要取扱い製品①

分野	主要取扱商品	主要仕入先	
産業機器	検査装置 組立・検査装置	ユニハイトシステム、FEI、島津製作 所、アキム、セイコーエプソン	
/生来1次66	組込ソリューション 科学機器	ARTESYN、Aitech、ADLINK、 LayTec、Riber	
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、 コニカミノルタヘルスケア	
运用1%66	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、 カネカメディックス	
レーザ機器	半導体レーザ レーザ加工機	nLight、Laserline	
V 910x16	光機器	Excelitas Technologies, Luminus Devices, First Sensor	
航空宇宙機器	宇宙関連機器 計測・センサ	Tele Communication Systems、 GEセンシング、Meggit、Plascore	
沙心工丁田1灰位	航空関連機器 高周波電子機器	TEXTRON、L3 Technologies、CPI、Bird	
情報诵信機器		PCTEL、EXFO、 Microchip、Calnex、Spirent	



### MARUBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

# システム事業:主要取扱い製品②

### 航空宇宙機器



BEI Sensors社 高信頼性部品



CPI社 マイクロ波電子管

### 産業機器



島津製作所 ガスクロマトグラフ質量分析計



FEI社 赤外線発熱解析装置



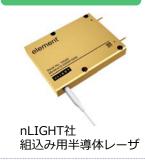
アキム 電子部品組立装置



FUJI 大気圧プラズマ表面改質装置

# システム事業:主要取扱い製品③

### レーザ機器

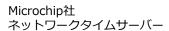




Laserline社 レーザー加工装置

### 情報通信機器







Spirent社 GNSSシミュレータ

### 医用機器



シーメンス・ジャパン社 X線CT装置

MARUBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION

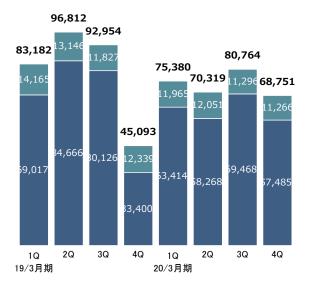
業績四半期推移(事業別受注高・事業別売上高)

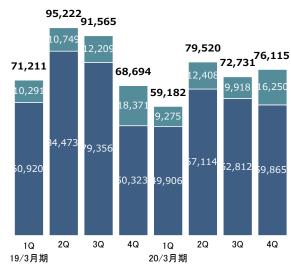
事業別受注高

事業別売上高

(百万円)

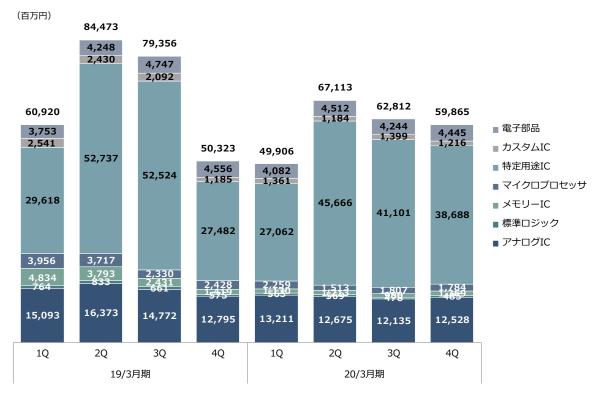
■ デバイス事業 ■ システム事業







# 業績四半期推移(デバイス事業:品目別売上高)

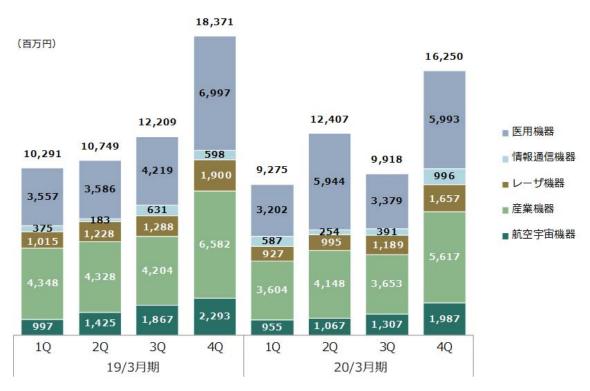


MARUBUN CORPORATION

© 2020 MARUBUN CORPORATION



# 業績四半期推移(システム事業:品目別売上高)



# 本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び 合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により 異なる可能性がありますことをご承知おきください。

### 本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

E-mail ir@marubun.co.jp

TEL 03-3639-3010

**MARUBUN CORPORATION** 

© 2020 MARUBUN CORPORATION